

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年9月12日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 小嶋修一（沖縄を取材）		
検証テーマ：自民党総裁選、オープニング、バーレーンとイスラエルが国交正常化、ロシアのワクチン 北朝鮮の金党委員長が台風被災地を視察、【特集】“官邸主導”現役職員語る		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自民党総裁選</li> <li>・オープニング</li> <li>・バーレーンとイスラエルが国交正常化</li> <li>・非常に激しい雨に明日も警戒も</li> <li>・宮城県柴田町の住宅での夫婦刺傷事件で犯人は逃走中</li> <li>・ロシアのワクチン</li> <li>・北朝鮮の金党委員長が台風被災地を視察</li> <li>・福岡市中央区で作業中の大型クレーン車が転落</li> <li>・午前11時44分頃宮城県沖で地震</li> <li>・プロ野球で入場者数制限を緩和</li> <li>・東京都で新たに226人が観戦</li> <li>・港区で女性にわいせつ行為の疑いで男性を逮捕</li> <li>・自宅で大麻草を栽培した男を逮捕</li> <li>・【特集】“官邸主導”現役職員語る</li> <li>・【特集】新型コロナ沖縄の戦い</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自民党総裁選：結論→特に問題なし</li> </ul> <p>自民党総裁選について以下に朱したようなVTRが取り上げられていた。</p> <p>石破茂（元幹事長）「一人ひとりが大切にされる強い社会、そういうものを私は目指して参ります。」</p> <p>菅義偉（官房長官）「私が目指す社会像というのは、自助、共助、公助そして絆であります。」</p> <p>岸田文雄（政調会長）「格差や分断にしっかり向き合う、そして多様性を認める、こうした経済や社会を作ってきたと考えております。」</p> <p>ナレ「自民党総裁選は両院議員総会の投開票まであと二日、三人の候補は午後、日本記者クラブの公開討論会に参加し議論を戦わせました。」</p> <p>菅義偉「アベノミクスによって格差というのが拡大されたと考えているのかどうか。」</p> <p>岸田文雄「アベノミクスについては高く評価をしています、しかしまだやり残したことがある、これがまだ広がらないうちにコロナの影響を受けた、そしてその事によって格差がこの深刻化してしまった。」</p> <p>ナレ「安倍後継を強く訴える菅長官は岸田政調会長に格差の問題を問いかけました、またコロナ対応に法的な強制力を伴わせるため、特措法の速やかな改正を訴える石破元幹事長は、菅氏の見解を質しました。」</p> <p>石破茂「感染を収束させるために必要があれば特措法は改正すべきだと思っています。」</p>		

菅義偉「現在の法律の中で感染リスクをコントロールしながら今、一生懸命に取り組んでおります、こうしたことをしっかり取り組んでいくことが大事だと思います。」

ナレ「このあと討論会は質疑に移り、公文書が改ざんされ財務省の職員が自殺に追い込まれた安倍政権の負の遺産とも指摘される森友学園問題について菅氏の認識を問う声が上がりました。」

"記者「森友問題は菅さんにとっては終わった問題だというご認識ですか。」

菅義偉「これ、財務省では調査をしました、そして検察でも捜査を致しました。結果は出ていると考えています。」

記者「政治責任については十分にとっているというふうにお考えですか。」

菅義偉「あの、財務省で調査をしてですね、その結果として処分は行われていたんじゃないでしょうか。」 "

"ナレ「討論会以外に、今日は浅草で岸田氏が新型コロナの影響を視察しました。」

岸田文雄「ぜひ、粘り強く、最後の最後まで総裁選挙、頑張っていきたいと思っています。」 "

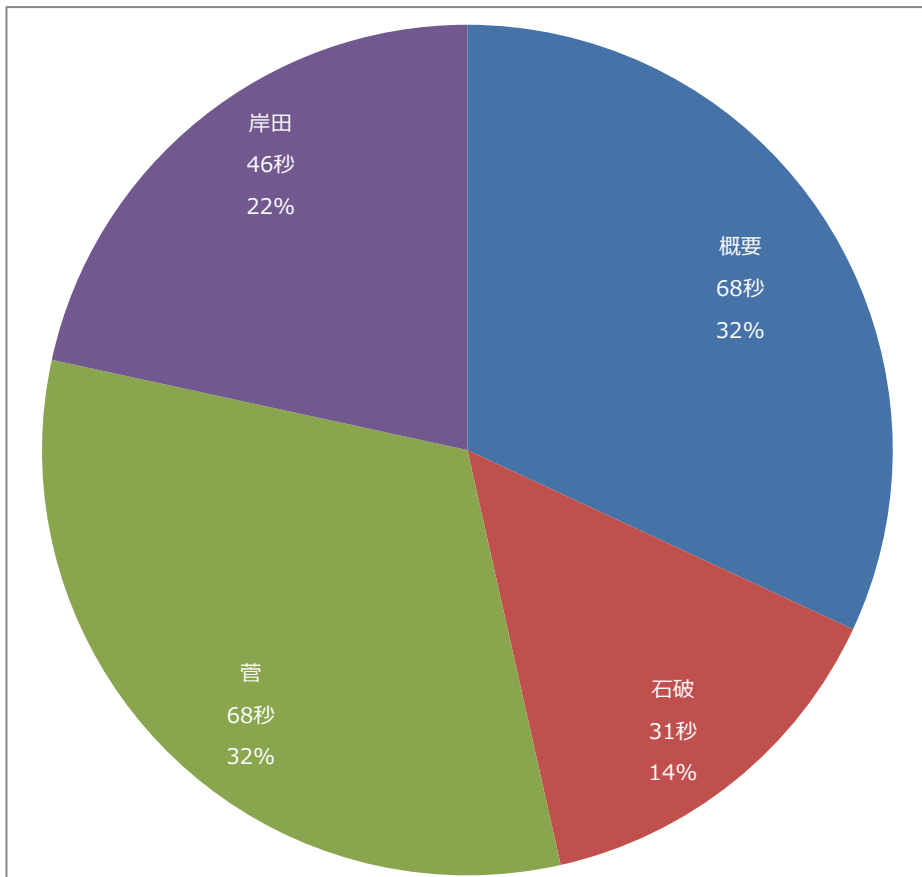
"石破茂「これでいきますよ、最後まで。」

鴨下一郎（石破派会長代理）「ことさら構えないでいいですよ。やっぱり堂々と石破茂を全面に出せばいいので。」

ナレ「一方、石破陣営は討論会で優位に立てるよう、作戦会議を開きました"

総裁選、明日は 141 票の地方票について各地で予備選の開票作業が行われます。」

このトピックについて当てられた時間は 213 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組のオープニングで金平キャスターが「病気を理由に大切な政治判断を誤ってはならないとして、辞任を表明した安倍首相が敵基地保有攻撃能力保有を促す談話を昨日発表しました。専守防衛を巡ってこれほど論議の多

い問題でやめ際に残した談話、次の政権の判断をしっかりと見ていく必要があります。」とコメントしていた。

このシーンに当てられた時間は 21 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・バーレーンとイスラエルが国交正常化：

膳場キャスターの「ではニュースです。アメリカのトランプ大統領は中東バーレーンとイスラエルが国交を正常化することで合意したと発表しました。」とのコメント、日下部キャスターの「これを受けパレスチナ側は大きな誤りなどとして強く反発しています。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

"トランプ大統領「平和と協力の精神でバーレーンとイスラエルが外交関係を完全に正常化することで合意した。今日は本当に歴史的な日だ。」

ナレ「アメリカ、バーレーン、イスラエルは共同声明で二国の国交正常化は中東の積極的な変革を継続し、安定性、安全性、反映を向上させると異議を強調しました。イスラエルとの国交正常化は UAE アラブ首長国連邦に続く動きでネタニヤフ首相は『アラブ諸国との平和の輪の構築に加わったバーレーンに感謝したい』とコメント、バーレーン側も『地域の安全保障や反映のためにアメリカが費やした努力を称賛する、パレスチナにとってもベストな未来への道筋だ』と述べています。一方、パレスチナ側は『バーレーンは大きな政治的誤りを犯した』と強く非難。イスラエルと国交正常化する条件として多くのアラブ諸国の中で大義とされてきたパレスチナ国家の樹立をめぐる問題が置き去りにされ、孤立化が鮮明になっています。"

このトピックについて当てられた時間は 90 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ロシアのワクチン：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「世界に先駆けてロシアが承認した新型コロナウイルスのワクチンについて、開発を支援する政府系ファンドは 17 日、来年末までに世界で 10 億人以上が接種を受けるとの見通しを示しました。」とのコメントを受けて VTR が取り上げられるとともに、ナレーションによって「ロシア政府系ファンドの直接投資資金によりまずと新型コロナウイルスワクチン『スプートニク V』について、日本や韓国、サウジアラビアなど世界の人口の半数以上となる 30 カ国以上が関心を示しているということです、この内インドとは年間 3 億回分のワクチン生産計画で合意しているといい、来年末までに世界で 10 億人以上が接種を受ける見通しだと言います。スプートニク V はロシアが世界に先駆けて先月承認しましたが、今月 9 日に最終段階の臨床試験を始めるなど、安全性と効果を懸念する声もあがっています。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 62 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮の金党委員長が台風被災地を視察：結論→特に問題なし

膳場キャスターによって「北朝鮮の国営メディアは 8 月に洪水被害を受けた南部黄海北道を金正恩党委員長が視察し、試練を力強く克服しようと言います。朝鮮中央テレビは金党委員長が南部黄海北道銀波郡の洪水被害の復旧建設現場をおよそ 1 ヶ月ぶりに視察したと報道。金党委員長は『わずか 30 日あまりで農村の住宅が整然と再建された』として復旧作業にあたった軍の担当者をねぎらい、『民を以て天と為す』『天のような人民の信頼に無条件に報いる』と人民生活第一の姿勢を協調、また浸水被害を受けた田んぼの稲の生育状況が良くないと心配し、洪水台風被害の試練を力強く克服しよう、と述べました。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 58 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】“官邸主導” 現役職員語る：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集です。安倍一強政権に変わる新しい内閣が来週発足します。長きにわたる官邸主導が押し進められた結果、官邸と官僚の関係は一変しました。現場で今何が起きているのでしょうか？」とのコメントを受けて、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「2014 年、第 2 次安倍政権が発足してまもなく作られた内閣人事局。その中心にいたのが、菅官房長官だった。」

ナレ「中央省庁の幹部、およそ 600 人の人事はすべて官邸が決めるようになった。」

ナレ「今週、TBS の NEWS23 に出演した。菅氏ら 3 人の候補は官邸と官僚の関係について」

岸田氏「付度とか、そういった弊害があるのではないか。こういった国民の疑念が、あるわけですから、これに対してはしっかりと答えなければいけない。」

石破氏「大臣すっ飛ばして、官邸に駆け込む官僚がいらないとは言わないか。それは政治として、政府として不健全なことだと私は思いますね。」

菅氏「ちょっといいですか。私も反論させてもらいますけれども、大臣を蹴飛ばして官邸で人事をやることは無いんです。それは大臣がそれぞれの省庁に責任をもっているわけですから。」

ナレ「安倍政権で押し進められた官邸主導。その弊害を訴える声も挙がる。」

ナレ「厚生労働省の現役職員が匿名を条件に取材をに応じた。」

職員「官邸主導は 良い面も悪い面もあると思っています。良い面は利害関係の壁に挟まれてスタックしているという案件について『官邸が言っているから仕方がないんです』そういったさまざまな言い方あると思いますけども、官邸の御旗を使って、強力に前に進める推進力になる」

ナレ「こう話す一方、男性は弊害の方がはるかに大きいと強調する。」

職員の男性「現場感覚からすると大きくずれたことが落ちてくることもあって。この場合には、ただその軌道修正がただなかなか思っている、出来ないっていうところは官邸主導の弊害なのかな。」

ナレ「弊害の象徴的なものとしてあげたのが、」

職員の男性「その最たるものがアベノマスクだと思っていて、あれは本当に最悪だったと思っています。」

(CM)

ナレ「安倍政権で進んだ官邸主導。厚生労働省の現役職員は、その弊害の象徴としてあげたのが・・・」

厚労省現役職員「その最たるものが、アベノマスクだと思っていて、あれは本当に最悪だったと思っています。元々厚労省は、老人ホームだとか、病院とか、本当に感染リスクが高い所に、集中的にマスクを配布するつもりだったんですが、突然全世帯に配布すると官邸で決まりました。国民がそれで喜んでもらえるのであれば、こちらとしてもいいんですが、結果はご存知の通りになってしまっていると。いつも突然上から降ってくる。現場を知らないし見ていないからこそ、実務を加味せずに決めるのでは、とても困ることになってしまう。」

ナレ「この職員は、官邸主導が長く続いたことで、省内に大きな変化が起きたと指摘する。」

厚労省現役職員「ちょっとそれは官邸の意向であれば、仕方がないね。というのが、通ってしまっている。本意ではないけれども、仕方がないね—というようなそんな風潮に、職員もなっているし、何より幹部がそういうマインドになっている。」やらされ仕事”みたいな形になっていってる面が、あると思います。」

厚労省現役職員「厚労省の昔からやってきた、企画立案のスキルみたいなものは、どんどん落ちていってるんじゃないかなという風に感じています。新たに官邸の方から業務が降ってくる。その作業を裁くだけで精一杯になって」

ナレ「官邸から振られた仕事で矢面に立つことも。」

厚労省現役職員「官邸主導で決まったことであってもそうなのですが、予算委員会などで、答弁させるのは、厚労大臣であり、厚労省の幹部職員。であると、」

厚労省現役職員「で、一方で国会だけではなくて、今、野党合同ヒアリングというのもあって、ひたすらちょっと怒られ続けるっていうようなこともあります。それもなんでこんなことしたんだろう延々言われて、説明しないといけないんですけども、その説明が難しいんですよね。歯がゆく思ってる職員もいたと思います。」

ナレ「幹部の人事を官邸が握っていることについては・・・」

厚労省現役職員「官邸に好かれると、偉くなれるというのは、もうみんな誰しもが思っている、幹部はみんな思っていることでありますので、それで官邸に気に入られるような、政策というなり、そういった考え方を していく傾向は、ある。」

ナレ「そしてもう一つ、 目に見えぬ形で深刻な事態が起きているという。」

厚労省現役職員 「エース級の職員がいっぱいやめてっているんですよ。もう僕が知っているだけでも、もう今年だけで何人辞めたかなって。その職員ってのは、とても優秀な職員ばかりで、それって国民全体にとったら不幸なことですよ。」

ナレ「去年 9 月まで厚生労働省で働いていた、千正康弘さん。官僚を取り巻く環境が大きく変わったことで、霞ヶ関を去った一人だ。」

ナレ「IPS 細胞などを使った、再生医療を促進する法律など、いくつもの法改正に携わってきた。」

千正さん「なんか、課題が起こってから、法律を作れとか、対応しろっていう時間軸が、ものすごい短くなったんですよ。うん。例えばね、僕が一番長くやってた仕事は、児童虐待の対策なんですけども、平成 20 年代の後半は、四年で 3 回も法律を変えてるんですね。官邸がとにかく人もつけろとか、法律のほかのものよりも優先的にやれっとかになると動くんですよ。そのことはいいことなだけけれども、それは要するに仕事がすごく増えていくわけ。」

ナレ「官僚たちは以前よりも、過重な労働を強いられるようになったという。 退官した千生さんは、自ら会社を起し、NPO などと連携しながら、医療や福祉といった社会問題を解決する仕事をしている。」

ナレ「現役官僚たちのためにも、見直してほしいと話すのが、国会論戦のあり方だ。」

千生さん「民主党政権の時、もっとひどかったんじゃないかってまず言うんですよ。経済指標もよくなり株価も上がったっていうその実績をちゃんと述べると。このスタイルが確立したんですよ。だからなるべく丁寧に説明しようという風に、僕は思ってやってきたんだけど、どうも『そうじゃない』と。」

ナレ「官邸からは、丁寧な説明よりも、政権の実績を強調した答弁書を求められたという。」

千生さん「ちゃんとこっちの正当性を、自信をもって反論しろみたいな、感じになった時に、最初はやっぱ、すごい違和感もありましたよね。官僚としてもその、与野党の喧嘩の、を支えるみたいな仕事じゃなくて、政策そのもののことを考える時間を、もっと増やしたいですね。」

菅義偉官房長官「自分の中に温めておりました、ふるさと納税を、官僚の大反対を押し切って成立をさせました。」

ナレ「今月 8 日、菅官房長官は、こう胸を張った。 この言葉通り、ふるさと納税をめぐる官邸人事が霞ヶ関中を震撼させた。」

総務省平嶋彰英自治税務局長「ふるさと納税周知 PR 用 資料の一つとして、・・・」

ナレ「2014 年、自治税務局長だった平嶋彰英氏。事務次官候補の一人とされていたが、ふるさと納税に異論を唱えた翌年、自治大学校長に異動となった。事実上の左遷人事だった。」

ナレ「その平嶋氏が撮影しないことを条件に、番組の取材に応じた。」

ナレ「当時は自治体の返礼品競争が加熱し始めていた。消費増税をお願いしている中、高所得者の節税対策にな

っているのはおかしいなどと訴えた平嶋氏に対し、菅官房長官は・・・」

平嶋氏（ナレ）「俺はふるさとに純粹に寄付している人を、いっぱい知っていると言われ、資料も渡したがすぐ返されました。俺に文句言うなという感じでした。最後の決定は政治がする。それはいいと思います。だから私も最後は言うことを聞きました。言う通りにしたけれど、途中の段階で文句言ったから、外すって変ですよ。ね。」  
ナレ「その後も返礼品競争は加熱。自治体と国が裁判で争う事態になった。定年を前に退官した平嶋氏は、『自分のことをきっかけに、官邸に何を言ってもダメだという雰囲気が出た。』と話す。」

ナレ「文科省で、官僚トップの事務次官を務めた前川喜平氏は、大臣まで了解を得た人事が、官邸に覆されたと話す。」

前川喜平氏「以前も、官邸の了解を得るという手続きはあったんですけども、大概是官邸は OK してたんですけども、菅官房長官からは、ダメ出しを食らうと、拒否権を発動されるということが、よくありましたね。」

金平「(官僚を) 保身に走らせるような、その、恐怖の植え付け方の具体例って言うんですかね、いくつかご存知ならば・・・」

前川氏「文化庁長官の人事でね、文部科学省からの内部登用という形で、当時の大臣の了解をもらって、で、官邸に持って行って、で、官邸でその副長官の杉田さんの感触は良かったですけども、官房長官に上がったら、これ差し替えさせられたと、こういうようなケースはありましたね。」

ナレ「さらに文化功労者や、文化勲章の受章者を選ぶ審議会の委員の人事でも・・・」

前川氏「思想的にですね、好ましからざる人物だということですね、安倍政権批判のようなことを、どこかで発言していると、というようなことがあったわけですけども、まあそういう人を差し替えろと言われたと。ということがありました。」

ナレ「TBS のニューストゥスリーに出演した菅官房長官は、大臣の意向を無視した人事を行うことはあり得ない。と主張した。」

すが官房長「反論させてもらいますけれども、大臣を蹴飛ばして官邸で人事をやることはないんです。それは大臣がそれぞれの省庁に責任を持っているわけですから。ですから大臣の納得の上でなければ人事は行使しないということです。」

ナレ「前川氏は、菅総理が誕生すれば、官邸からの圧力が、さらに強まると見ている。」

前川氏「安倍・菅政権が私は、スガスガ政権になると、次の官房長官は、菅総理の分身みたいな人になるでしょうからね。今度はもう全ての官邸官僚が、菅側近官邸官僚になるわけですから、この官邸の中の菅一強支配が、より強まるんだろうと、思いますね。あまりすがすがしい気にはならないですけどね。」

(CM)

ナレ「中央省庁の幹部人事を決める内閣人事局。その必要性は民主党政権も主張してきた。その時の中心人物が・・・」

膳場「よろしくお願ひします。」

ナレ「民主党の実務責任者の一人として、与野党の修正協議にあたった松井孝治元官房副長官。『縦割り行政をなくすため、総理や官房長官の直轄とする』よう強く主張したという。」

松井氏「その国民が選んだ代表者が、国全体のために何が必要かを持っているのかというのを見るっていう方向に誘導しようと思って、内閣人事局は作られたわけです。そういう意味では、ある意味ではその、官邸の方を見るっていうのは、僕らが考えた事なんです。」

膳場「なるほど、」

松井氏「官僚はね、人事ですよ。この人事という切り札を、その官僚操縦の切り札を、しれば、刃プラスにもマ



イナスにもなる。」

松井氏「ものすごくインセンティブにもなるし、ある意味では恐怖心の元にもなる。それはやっぱり官邸に持たせるとべきだと思ったんだけど、」

ナレ「だが安倍政権では、行き過ぎた、官邸主導の弊害が目立つと、松井氏は指摘する。」

松井氏「実は霞ヶ関の働き方という意味では、一番大きな不満より 1 国会になってるんですよね。今ね。」

膳場「官僚としての本来業務に割く時間より、国会の対応にさかれてしまう？」

松井氏「はい。資料請求どうしのぐかとか、この野党の追及同どうしのぐかとか、ここで局長が国会で倒れないように、どういう風に想定問答つくるかとか、そっち側ばかりに、労力割いていくとですね、本当に国民にとってどうなのかと言う考える時間がないし、ものすごく悔しい思いをしながら霞ヶ関を去る人も、続出しているわけです。」

ナレ「安倍政権では、官僚の付度や、公文書の改ざんといった官僚制度の歪みが浮き彫りになった」

ナレ「鳥取県知事や総務大臣を歴任した片山善博氏は、公僕としての姿が失われていることを危惧する」

片山善博元総務省「なかには、官邸の中に入って、政権の中に入って政権と命運を共にすると、これも最近は出てきましたね。これは昔あんまなかったんですけどね。官僚というのは、内発的って言うか、自発的に、課題に取り組もうという、善意な部分があったわけですよ。」

日下部「これ内閣人事局の存在というのは、要因の一つとして挙げられるわけですか？」

片山氏「ありますね。制度はやっぱり、運用する人の見識 や力量にやっぱりかかってきますよね。どんな良い制度でもね、へたに運用したらボロボロになりますよ。」

ナレ「安倍政権の継承を掲げる菅官房長官。新しい政権では、官邸と官僚の関係は変わるのか？」

片山氏「全く期待できないわけではないけど、可能性は非常に低い。官邸に非常に可愛がられてるっていうか、覚えのめでたい官僚もいますから、もちろん比率でいえば非常に少数ですけども、そういう人はもう、一生懸命働こうとするでしょうね。官邸のためにね。政権のために。だけどその周りにもう、ごまんと白けた人がいるという状況というのが、それはあんまり変わんないんじゃないかなと思いますね。」

ナレ「官僚になる学生が最も多い東京大学。しかし近年、変化が見られるという。」

東京大学大学院衛藤健さん「なりたいていうふうにする人は、減っていると思いますね。官僚の仕事に対するイメージが、あんまり良くないっていうのがあるのかなって言う風に思います。」

ナレ「こう話すのは、東京大学の学生たちが運営している新聞で、記者を勤める衛藤健さん。」

ナレ「今週の紙面では、国家公務員総合職の試験に合格した東大出身者が、史上最少になった記事を掲載した。今年度の、全体の合格者数は 1 7 1 7 人。この家東大出身者は、前の年から 58 人減って、過去最低を記録した。」

ナレ「官僚目指す学生が減った理由について、衛藤さんは」

衛藤さん「長時間働かなきゃいけないと、国会の対応しなきゃいけない。で、議員からの質問通告が遅いですとか、そういった問題がひとつあるのかなって言う風に思っています。でもう一つ目としてはやっぱり、このアベノミクスという中で、やっぱり民間企業の業績は良くなってきていた。国家公務員に対して相対的にこう人気が落ちていったのかなって言う風に思っています。」

ナレ「これから官僚を目指す現役東大生たちは何を思っているのか。教養学部 3 年の、原雅貴さん。来月実施される国家公務員総合職に向け、1 日 8 時間勉強している。」

東京大学教養学部 3 年 原雅貴さん「僕の親戚が、えーとまあ官僚をしておりますで、最近こういう仕事をしていて、ていうような、ことをお話ししてくださいなあって、それが子供心に、すごいなんかこう国を動かす大きなスケールの大きな仕事をしているなど、いう風に思いましたし、自分も子供の頃に官僚かっこいいと思ったし、」

ナレ「東京大学教養学部3年の柴田光毅さん。厚生労働省を志望している。」

柴田さん「日本の労働ってというのは、その正社員がずっと長時間働いて、で、でそれが男性ばかりで、ていうところがやっぱり、一番問題だなと思っていて、女性の活躍推進っていうのが自分の中で大きくとやりたいなと思っているので、」

ナレ「今柴田さんと原さんはインターンとして、中央官庁の仕事を体験している。官僚の仕事どう見たのか。」

柴田さん「現場のやることっていうと、やっぱりこの、政令のホントの一部のところを改正しますよっていうところに、全力をかけていろんな省庁の間を走り回って調整してみたいな。憧れるようなキラキラとした官僚像。政策を作っているみたいなのはあるけど、実際にあるのはこの泥臭い、省令のこの一個をこの一文を変えるんだ。というのに 何十時間を費やしてっていうのはまあやっぱり現実を見たかなーって。」

原さん「この1年間で、これだけ日本を取り巻く国際情勢、特に防衛省なので、安全保障環境ってものが、あのめまぐるしく変わってって、すごい事態の変化に応じて、色々な 対応策を練っているんだなということとは伝わってきましたね。」

ナレ「それでも彼らが官僚を目指す理由とは。」

原さん「やっぱり今、日本がどんどん下り坂だという風に言われますけど、その中でも出来る事って言うのがたくさんあると思うので、その一翼を担いたいです。」

柴田さん「当たり前を支えていくっていうことなんじゃないかなと思います。その今の平穏で平和な生活っていうものを、これからもこの国みんなて享受できるように、そういうベースの部分をしっかり支えていくのが、官僚なのかなというふうに思いますね。」

(CM)

特集のVTRを受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り上げられた。

膳場「取材の中で現役幹部官僚たちの中には、菅官房長官と会うと背筋が凍るという人たちがいるというような話が出ましてね、これはとても象徴的だなと思いました。人事権を握って官僚を非常に巧みに完了コントロールしてきた官邸のその中心にいたのが、菅官房長官です。その結果何が起きたのか。安倍政権を振り返りますと、官僚から正義とか公正とか、国民全体の奉仕者と言う志、そういうものが薄れてしまったと思われる事案が本当にたくさん私たちは 見せつけられてきました。次の政権で、次の政権菅政権ですね、発足に際してこのことを今一度思い出しておかなければいけないなどどうしても思います。」

日下部「あのあの官僚を含めた公務員がね、国民全体に仕えなさいというのは、憲法で定められていることですよ。官僚というのは国を代表する頭脳集団だと思うんですね。そういう人たちがですね、国民じゃなくて一部の人たちだけに使えるとなると、これは国の形が根本的に変わってしまうんですね。例えば中国を見ていきましょう。中国の党官僚っていうのはですね、欧米の博士号を持っている人も多いですし、国際感覚にも優れている。非常に優秀な人達です。中国の役所なんかに行くんですね、『人民に奉仕せよ』なんて堂々と貼ってあるんだけけども、実質はどうかというと、官僚の最優先は共産党を守ることなんですよ。国家の一流の知性をですね、誤って使うこと。これは国民にとって大きな損失に他ならないと思いますね。」

金平「あのね、政権の中核に近い官邸官僚と言われてる人たちが全部決めてしまって、その官庁がですね、その下請け機関みたいになってしまっている。これはあえて言いますと腐敗だと思いますね。これをほっといていいわけではないんで、これね、ご覧頂きたいんですけども、実は森友問題のですね、近畿財務局の自殺した赤木俊夫さんですね。公文書改ざんさせられた人が死ぬまで肌身離さず持っていたこの公務員倫理カードってやつなんですよ。で、これ擦り切れてて本人が何度も見返していたものだと思うんですけどね、ここでねセルフチェックっていうのがあって、国民全体の奉仕者であることを自覚し、公正に職務を実行していますか？とかね、国民の疑



惑はや不信を招くような行為をしていませんか？ていうようなことを書かれているんですよ。僕はこの文言こそですね、今官邸官僚と言われてる人たちにきちんとですね、もう一度読み返してほしいと思いますけどね。」

このトピックについて当てられた時間は 1558 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】“官邸主導” 現役職員語る

VTR の中で元官僚の意見として組織的天下り斡旋や出会い系バーに通い詰めたことが問題となっていた前川喜平氏が取り上げられていた。この方は座右の銘が「面従腹背」とのことであるが、誰に対する「面従腹背」だったのか、それは政治家に対する「面従腹背」ではなかったのだろうか。前川氏は従来の霞ヶ関の人事システムのなかで事務次官まで出世した人物であるのだから、こうした人物は官邸主導によってどうなるのだろうか、ということも気になるところである。また、報道特集ではこうした色々問題のある人物を頻繁に取り上げているように見えるが、どういう意図があるのだろうか、こちらも気になるところである。

また、東大生の官僚離れということも取り上げられていたが、従来官僚を目指していたような層は今はどういう業界を目指しているのだろうか、こちらも気になるところである。優秀な人材が霞ヶ関ではなく民間に流れているということは、霞ヶ関がこれまで背負っていた重荷をかなりの程度軽減できるようになる、とも考えられはしないだろうか。

ところで、私たちは安倍政権があまりにも長く続き、その中で大臣も非常に長い間その職にあるという省庁もいくつか出てきているので、忘れがちになるが少し前までは総理大臣も各省の大臣も 1 年、2 年で交代するというケースが非常に多かった。そうした中で、官僚はどこを見て仕事をしていたのだろうか。すぐに変わる大臣や政治家ではなく OB の方を見て仕事をしていた、などということはないのだろうか。